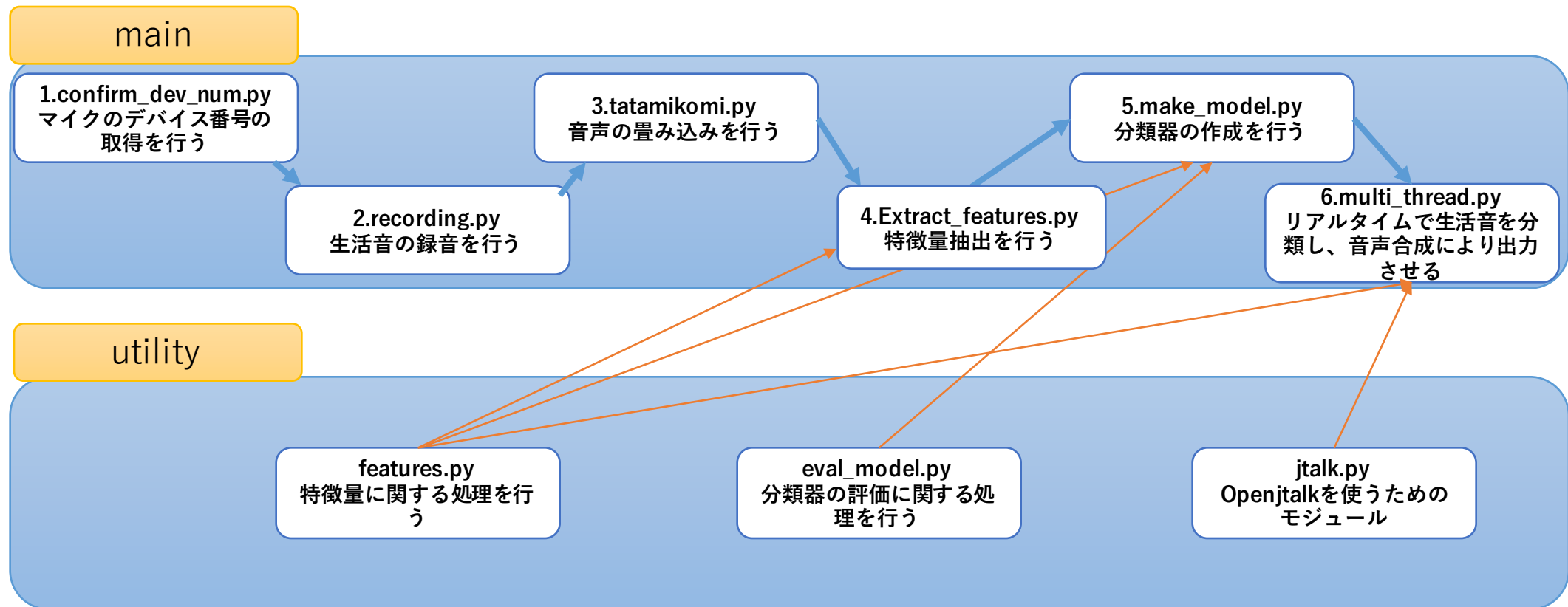


実行までの流れ

1. 2. マイクのデバイス番号を取得後、その番号を指定し、生活音の録音を行う。
録音したデータ（"元データ"と呼ぶ）が、分類器の訓練データ、およびテストデータとなる。
3. 元データ数を増やすために、音声の畳み込みを行う。
4. 5. その後、元データの各データに対し、MFCCによる特徴量を抽出し、分類器を作成する。
6. 分類器の認識精度が満足に値した場合、リアルタイムで生活音の分類を行う



ノイズ除去の流れ

1. ハードウェアからのノイズ対策の評価を行うためにホワイトノイズを作成する。
2. マイクのデバイス番号を取得後、その番号を指定し、生活音の録音を行う。その際、ホワイトノイズを流し、ノイズ除去の程度を確認する。
3. 取得した生活音のパワースペクトルをグラフで表し、ノイズ対策による効果を測定する。

